

**地域中核大学イノベーション創出環境強化事業
令和6年度採択校フォローアップ審査調書**

法人名：国立大学法人金沢大学 大学名：金沢大学

(1) 事業初年度の取組と効果（～令和6年度末）

① 地域の中核大学として、自身の強みや特色が、本事業初年度でどのように進展したと自己分析しているか。

【①多様性と卓越性】 文理医融合による卓越研究領域が増幅

10年後のビジョン「非連続なイノベーションを創出し続ける世界的拠点」からのバックキャストによるアクションを、J-PEAKS事業により加速化した。

そのうち、多様性と卓越性の伸長に向け、基礎研究・融合研究の高度化に力点を置き、プロミッシングリサーチャーの雇用等の若手研究者の育成、WPIやCOI-NEXT等の拠点運営に係るグッドプラクティスの学内共有、文理医融合による「宇宙理工系研究拠点」「ライフサイエンス系研究拠点」の形成、国際共同研究の拡大等を行った。

この金沢大学のビジョンにそって、本事業においても、地域連携マネージャーや地域連携コーディネーターを雇用し、金沢市や新幹線延伸となった加賀、被災地の能登等、県内各地で自治体や産業界と連携し、先端観光科学研究所を中心に観光価値創出に向けた実装前試験研究等を行った。

これらの取組により、論文等の成果も生まれている。設定した評価指標は、一定程度の時間経過後に表出するものであり、現時点においては目標に対し順調に進展しているため、4と評価する。

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7 見込
トップ10%補正論文比率[%]	8.6	12.0	10.2	11.7	11.9	12.1	14.25
国際共著論文比率 [%]	28.7	32.0	31.1	31.7	31.9	33.0	41.0
外部資金獲得額 [億円]	62	57	76	86	86	決算中	95

【②社会実装・イノベーション】 スタートアップの創出

10年後のビジョン「非連続なイノベーションを創出し続ける世界的拠点」からのバックキャストによるアクションを、J-PEAKS事業により加速化した。

そのうち、社会実装の最速化に力点を置き、未来知実証研究センターを中心とした新たな未来課題の発掘、「テックスタートアップ北陸」や金沢大学発ベンチャーキャピタル「ビジョンインキュベイト」によるスタートアップ支援等を行った。これにより、2社が起業し、うち1社は、経産省の助成金2億円の獲得に至っている。

本事業においても、県内各地に拠点を整備し、地域や企業の課題やニーズの吸い上げ、連携体制の強化等を行い、また、プロジェクトの実装に向け、加賀市ではウェルネスツーリズム実証実験を、金沢市ではアクセシブルツーリズムに係る調査研究を、能登では復興を見据えたツーリズム研究を推進した。

このように、社会実装に向けて構築した仕組みが順調に稼働し、また、民間企業等との共同研究費受入額も順調に伸長しており、2.5と評価する。

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7 見込
民間企業等との共同研究費受入額（受託含む） [億円]	6.3	9.0	7.6	6.4	8.8	9.2	10.2
研究成果の社会実装数(start up企業の創出(EXIT)数) [件]	0	0	0	0	0	0	0

【③地域貢献】 地域との連携強化（サテライトオフィスの設置）

本事業により、研究シーズとニーズとを繋げる連携拠点として、和倉、珠洲、加賀の石川県内3箇所に地域連携拠点（サテライトオフィス）を設置し、さらに、地域連携マネージャー、地域連携コーディネーターを配置し、地域のニーズや課題を汲み上げ、地域や企業と連携した価値創出活動につなげている。

また、北陸未来共創フォーラムでは、国立大学改革・研究基盤強化推進補助金を活用し、観光分科会において、本事業とも連携し、インバウンド観光客の広域移動データなどを活用した地域課題

解決に取り組んでいる。また、経済団体の会員増加に力を入れ、地域企業の参画拡大・北陸の関係機関のネットワークの拡大も図っている。

これらの取組により、地域企業との共同研究件数や北陸未来共創フォーラムの参画企業数も増加しており、目標に対し順調に進展しているとして3.5と評価する。

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7 見込
地域企業との共同研究件数〔件〕	36	40	39	40	45	46	52
北陸未来共創フォーラムの参画企業数〔企業〕※			70	127	189	260 (約4000)	10000

※R7からは参画企業数の数え方を見直し、経済団体の数え方を1から団体の参加企業総数とした。

【研究環境およびマネジメント】 研究支援事業を強化

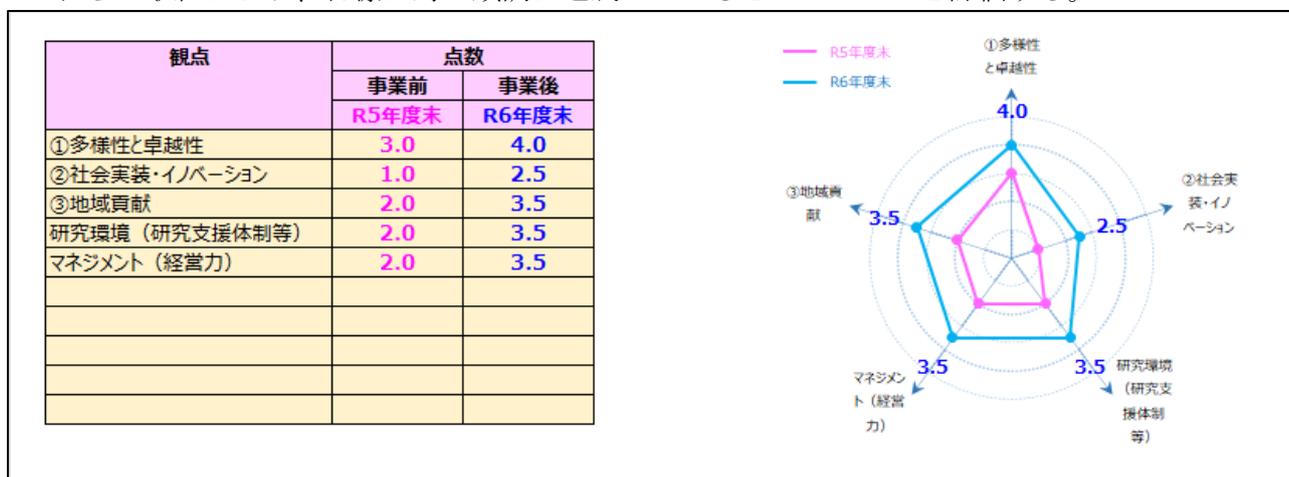
10年後のビジョン「非連続なイノベーションを創出し続ける世界的拠点」からのバックキャストによるアクションを、J-PEAKS事業により加速化した。

そのうち、研究支援機能強化に向け、研究支援人材の多様化と高度化、コアファシリティ機能の拡充等を行った。また、「未来の価値」の創造に向けた、研究支援を組織的に行う「先端科学・社会共創推進機構」と中長期的な能登の復興に寄与する「能登里山里海未来創造センター」との連携等、組織間の連携も強化している。

本事業においては、「オール金沢大学」の旗印の下、社会情勢に即応した活動を展開するため「北陸地域イノベーションオフィス(H-RIO)」を角間キャンパス内に設置した。拡張した経営リソースの戦略的再配分を通じ、イノベーションオフィスに補佐員を配置し、当該事業全体を補助することで、多様な人材交流環境の創出に繋げた。

また、地域連携および異分野融合を促進するための研究シーズの探索機能「iResearch」の収録機関数、収録研究者数を拡大し、機能を強化した。併せて共同研究による外部資金の獲得に資するため、主要FAのファンディング情報を追加した。これらのデータを活用するための情報分析人材を配置し、データ駆動型の産学官金連携による社会実装をより加速化させた。

これらの取組により、目標に対し順調に進展しているとして3.5と評価する。



羅針盤の観点	資金計画	申請時		令和6年度実績	
		数量	経費 (千円)	数量	経費 (千円)
多様性と卓越性	地域連携マネージャー雇用	1人	4,000	1人	2,256
	地域連携コーディネーター・URA雇用	5人	15,000	5人	17,822
	クロスアポイントメント雇用	1人	2,000	0人	0
	実装前試験研究費（物件費等）	5プロジェクト	40,000	5プロジェクト	2,148
	実装前試験研究費（人件費）	5プロジェクト	40,000	9人	43,017
社会実装・イノベーション	プロジェクト実装費（物件費等）	5プロジェクト	60,000	5プロジェクト	12,418
	プロジェクト実装費（人件費）	5プロジェクト	60,000	2人	8,862
地域貢献	地域連携サテライトオフィス環境整備	4箇所	48,000	3箇所	5,365
	補佐員（事務）雇用	6人	12,000	4人	2,580
研究環境 （研究支援体制等）	北陸地域イノベーションオフィス環境整備	1箇所	6,500	1箇所	184
	補佐員（情報分析）雇用	1人	2,500	1人	825
マネジメント（経営力）	データ駆動型システム整備・高度化	1式	10,000	1式	4,523
		合計	200,000	合計	100,000

② 上記に加えて、人材育成や教育など、既存の羅針盤の観点以外で進展が見られたものについても記述すること。

人材育成についても、10年後のビジョン「非連続なイノベーションを創出し続ける世界的拠点」からのバックキャストによりアクションを展開しており、特に以下の事象について進展している。

【グローバル化】分野横断型の多層的な多文化共修教育とグローバルキャンパスの実現に向け、大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業にも採択され、入学選抜方法、多文化共修特設プログラム、留学を含めた早期修了制度、充実した地域定着支援等、入学前から卒業・修了までの一貫した教育改革に着手した。

【観光価値創出人材育成】本事業においても、ロードマップに、観光科学を核としたプロジェクト創出及び人材輩出を掲げており、観光デザイン学類等において、県内各地で観光価値創出に向けたフィールドワークやゼミ活動等を行った。金沢大学能登里山里海未来創造センターの下、観光価値の創出を学んだ学生等を地域コーディネーターとして4月から採用すべく、準備を進めている。

(2) 2年目交付による取り組み計画と見込まれる効果（令和7年度～）

① 2年目の交付により、どのような取組を実施し、それにより地域の中核大学としての自身の強みや特色が、どのように進展できると見込んでいるか。

10年後のビジョン「非連続なイノベーションを創出し続ける世界的拠点」に向け、J-PEAKS 事業では、グローバルな視点により、「基礎研究・融合研究の高度化」と「社会実装の最速化」を、本事業では、「加賀・能登をフィールドに観光科学を核とした文理医融合研究による課題解決への挑戦を通じて、社会実装によるイノベーションを創出」を推進する。

【①多様性と卓越性】

当初の計画に沿って、引き続き、拠点整備と併せて、地域連携コーディネーターの配置、組織間の共創に向けたクロスアポイントメント制度等による人材活用、地域連携サテライトオフィスを核にした実装前試験研究等を推進する。

本事業と J-PEAKS 事業との連関により、論文等の成果の創出等を推進し、さらなる卓越研究領域の増幅、世界に比肩する研究力強化を実現する。

【②社会実装・イノベーション】

当初の計画に沿って、実装前試験研究のうち2件をプロジェクト実装に進展させる等、プロジェクトの実装による地域課題解決、観光価値創出を推進する。

本事業と J-PEAKS 事業との連関により、社会実装を推進し、イノベーションの創出および、それに伴う北陸地域全体の産業規模の拡大に繋げる。

【③地域貢献】

当初の計画に沿って、輪島市に地域連携サテライトオフィスを設置する。サテライトオフィスに加え、能登町、中能登町、羽咋市にも多用途拠点の整備を進める。整備した拠点を核に、地域企業、団体からのニーズを聞き出し、課題解決、観光価値創出に取り組む。

北陸未来共創フォーラムに「能登半島地震復興分科会」を設置し、本事業とも連携し、復興に向けた地域課題の解決に取り組むとともに、参画企業との共同研究に繋げていく。

【研究環境およびマネジメント】

当初の計画に沿って、多様な人材交流を推進するとともに、全国研究者情報検索システム「iResearch」の機能をさらに強化する。さらに、この本学独自のエビデンスに基づく地域連携および社会実装の仕組み、情報分析人材によるデータ駆動型の共同研究マッチングシステムを全国に発信し、研究マッチングにも寄与する。また、本事業と J-PEAKS 事業との連関、自治体・企業との共同研究の誘引、外部資金の獲得等により自走化を図る。

当初の計画どおり、本事業により、日本海側のイノベーション中核拠点を形成することで、地域観光産業に今後数年間で推定300億円の経済効果をもたらすと予想している。

観点	点数				令和7年度	
	事業前	R5年度末	R6年度末		R7年度末	数量
①多様性と卓越性	3.0	4.0	4.0	5.0	1人	8,000
②社会実装・イノベーション	1.0	2.5	4.0	4.0	5人	30,000
③地域貢献	2.0	3.5	4.0	4.0	1人	4,000
研究環境 (研究支援体制等)	2.0	3.5	4.0	4.0	3プロジェクト	3,000
マネジメント (経営力)	2.0	3.5	4.0	4.0	7プロジェクト	21,000
					4箇所	4,000
					6人	21,000
					1箇所	1,000
					1人	5,000
					1名	3,000
					合計	100,000

② 上記に加えて、人材育成や教育など、既存の羅針盤の観点以外で進展が見込まれるものについても記述すること。

当初の計画に沿って、本学の「観光デザイン学類」等で学んだ人材を連携コーディネーター等の観光中核人材として採用し、経済界から要望が多い人材の地域への定着を推進する。加えて、観光価値の創出に向け、地域の人材自らが多様な人と交流できるよう、また、地域課題解決に係る中核人材の能力向上に寄与できるよう、地域連携サテライトオフィスを核とした交流や学びの機会を設ける。